

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

- ・学校の標準偏差値を、嘉麻市の平均目標51.1以上にする。
- ・国語・算数市販テストにおいて、低学年90点、中学年85点、高学年80点以上にする。
- ・学年家庭学習目標時間の達成者数を、各学年の80%以上にする。

3. 指標にむけての取組

- ・主体的な学習を目指す授業改善を行う。(自分の考えを書く、伝える活動・学びの振り返り)
- ・単元テスト後の補充学習では、既習内容を確実に学ばせるための複数体制での指導を行う。
- ・統一した家庭学習の内容(宿題+自学+明日の準備)を決め、家庭学習の徹底を行う。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移

全国値の正答率を50とした時に対して

年度	R3年度				
本校(A)	46.9				
嘉麻市(B)	47.0				
(A) - (B)	-0.1				
全国正答値との差 (A) - (50)	-3.1				

各学年の推移



5. 各学校における分析

○学校の標準偏差値を、嘉麻市の平均目標51.1以上は達成できなかった。その要因は、以下のとおりである。

- ・学年によって、学力差が見られること。
- ・学年が上がるほど、C、D層が増える傾向にあること。(国語・算数市販テストにおいて、低学年90点、中学年 85点、高学年80点以上にする指標についても達成できなかった。)

○家庭学習の目標時間を達成することができた児童が85%であり指標を上回ることができた。家庭学習の頑張り週間を設けるなどしたことで、家庭学習の習慣が定着しつつある。

6. 各学校における今後の取組

○全職員で、本校の学力の推移や課題について共通理解を図り、全学年での学力を支える取組の徹底を図る。

- ・学びの構えの徹底
- ・朝の活動(10分間読書)の充実
- ・週一回のチャレンジタイムの設定(国語・算数の補充・発展問題に取り組むことができるようにし、複数体制での指導を行う。)
- ・統一した家庭学習の内容(宿題＋自学＋明日の準備)の確認と家庭学習頑張り週間の設定による家庭学習のさらなる定着
- ・『うしくまのやくそく』(学習準備)の徹底

○目的を明確にしたICT(カスタ)活用を図る。

○算数科を中心に、思考を促す授業づくり(書く活動・交流活動・振り返り活動)を行い、基礎基本の定着を図る。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。